

表4 文化財基礎調査実施状況一覧表

五、実施状況一覧
 会委員、岩崎敏夫、梅宮茂、田中
 正能各委員に委託して実施する。

(注記)
 数字は五十一年十一月十日現在の
 もの。
 第一次報告件数の欄は、A江戸

中															北										地 域 名							
滝根町	小野町	三春町	古殿町	浅川町	平田村	玉川村	石川町	天栄村	岩瀬村	鎌石町	長沼町	須賀川市	郡山市	東和町	白沢村	本宮町	大玉村	安達町	二本松市	月館町	霊山町	保原町	梁川町	国見町	伊達町	桑折町	川俣町	飯野町	福島市	市町村別	件数	
6	31	10	7	19	8	25	6			5	12		84	13	15		8		15	8	3	3	9	5	1	9	19	13		A	調査対象	
					1		2			3	6		10		1				1	2					2					B	調査対象	
											6																			C	調査対象	
該当なし									該当なし			調査業務中				該当なし		該当なし													調査業務中	摘要

会															南										中		地 域 名					
柳津町	湯川村	会津坂下町	西会津町	高野村	山都町	塩川町	北塩原村	熱塩加納村	喜多方市	猪苗代町	磐梯町	河東村	北会津村	会津若松市	蛸川町	矢祭町	塙町	榑合町	泉崎村	大信村	矢吹町	中島村	東	表郷村	西郷村	白河市	船引町	常葉町	郡路村	大越町	市町村別	次
3		41	1		3	16	5	3	7	16		1			3	6	4	10	7	5	9	2			2	2	65	13		9	A	報告件数
		26			2	3	4	2	7	8		1						5	4	1	4				2	2	63	12		9	B	第二次
		11				1	1		1									2		1	2						1				C	第二次
該当なし				該当なし							該当なし		該当なし	調査業務中									該当なし	該当なし								摘要

会		津		南		中		地 域 名																					
あい	い	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ																				
合	計	1,109	103	6	13	8	73	18	4	4	2	27	2	5	5	6	2	6	6	8	11	11				9	12	25	
		614	55	5	2	6	10	15		12	1	1	4			5		3	3	4	2	6				6	12	21	
		81	14	1	8	2	2	1				1					1		3			1						3	
		3																											

民俗音楽収集事業

期以前(年号年代判明)、B江戸期以前(年号だけ判明)、C明治期(該当可)を示す。
 なお、選定件数は担当が推定したもので、以後専門的判断による変更があり得る。

民間に広く流布している民謡やわらべ歌、それに民俗芸能などに伴った歌や囃子などの民俗音楽は、われわれの祖先が残してくれたかけがえのない文化遺産というだけでなく、将来の新しい日本の伝統音楽を創造する素材として、極めて重要であることはいうまでもない。しかし、これらの民俗音楽はもともと楽譜など存在するはずもなく信仰を基底として親から子へと代々伝承されてきたものだけに、昨今の社会情勢の激しい変容によって急速に失われつつあり、その調査収集が緊急を要することは単に研究者だけでなく、各方面の識者から指摘されていた。ところが、その事業には多くの経費と時間を要するために、組織的な調査研究はほとんど行われなかった。福島県合唱連盟は猶予ならないこの事態を認識し昭和四十六年より各方面の援助を得てその調査に着手し、本年度をもって六年間にわたった調査を終了することになった。ここに今年までの経過を述べ

てみたい。
 本連盟はまず昭和四十六年夏に、独自の予算で民謡とわらべ歌の所在調査にのりだした。調査用紙を県内約二千名の会員に数枚ずつ配布し、伝承者の住所氏名と歌詞などを記入してもらった。その結果、六十市町村にわたって千四百四十五枚を回収することができた。問題はその録音に要する経費のねん出にあったが、翌四十七年七月篤志家の寄付があり、更に九月の県の補正予算で百万円の収録が計上され、本連盟が委託を受けた。その結果本連盟内に「福島県合唱連盟民俗音楽調査委員会」を設置して調査収集に当たることになった。この調査に当たっては、本連盟会員不在の市町村もあるところから、該当の市町村教育委員会の手をわずらわし、所在の補足調査も行った。その結果更に二百四十八曲が確認され、先の本連盟の調査と合わせて千七百九十三曲となった。録音収集は伝承者の年齢からみて急を要するもの、また類歌の少ないものなど二百曲を選択し、委員が分担して行い、更にその半数の百曲を採譜した。この中には過去の文献にはまったく見られなかったものも数曲あり、大きな成果をあげることができた。
 この民謡とわらべ歌の調査収録は、県内はもとより県外からも大きな反響を呼び、更に民俗芸能に伴う歌や囃子も調査してほしいとの声が盛りあがった。それに力づけられて、本連盟は三年計画